

*** DIRECT VISION SPECTROSCOPE を発見！**

アーカイブ室新聞 125号で、東京天文台測光部にあったDIRECT VISION SPECTROSCOPEの寄贈を受けたと報告した(写真1、写真2)。これは直視型分光器でなかなか優れたものである。これで太陽光のフラウンファーファー線が見えるし、蛍光灯のエミッションラインも見える。目でよく見えるのだが、目で見えているものを写真に撮るのがなかなか難しい。



写真1 直視型分光器の入っていた箱

写真2 DIRECT VISION SPECTROSCOPE

このDIRECT VISION SPECTROSCOPは島津製作所製であり丸に十の字の島津のマークが入っており、SHIMADZUと刻印がある。備品番号(M-ワ-18)も付いているから帳簿さえ残っていれば何時、いくらで購入したかも分かる。

手で持ってみるようになっていたのだが、写真3のように3脚に固定してスペクトルを撮ってみた。



写真3 三脚に固定したDIRECT VISION SPECTROSCOPE

これで、太陽光（ただ外の明かりを見ただけ）を見ると写真 4 のように一応フラウンフォーファー線も見える。肉眼ではもっとよく見えるのだが、簡単なデジカメではこれが精一杯であった。

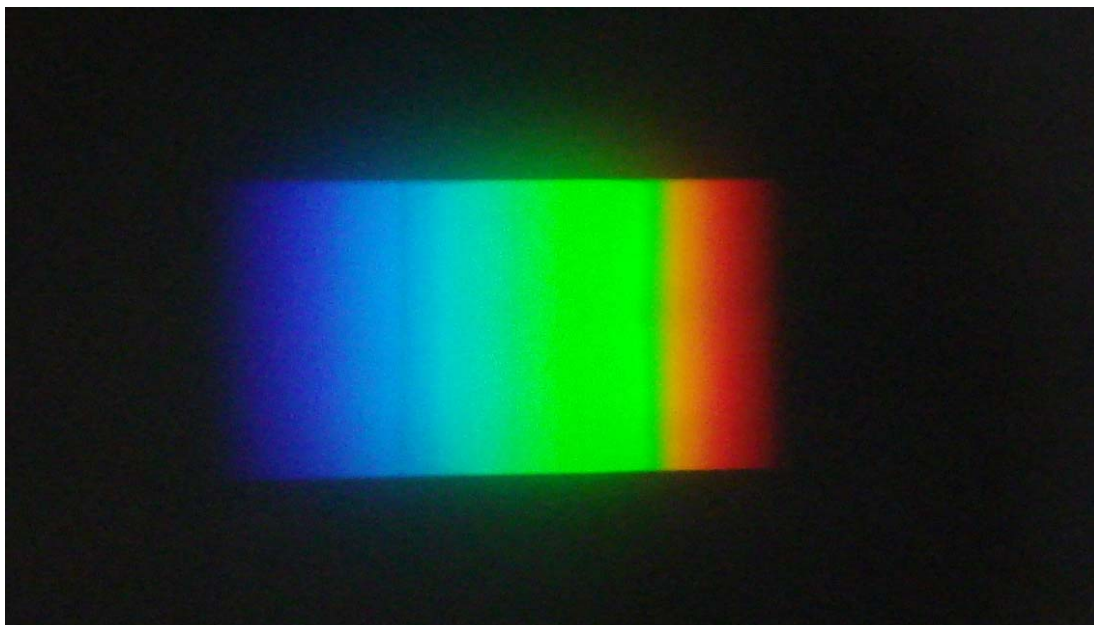
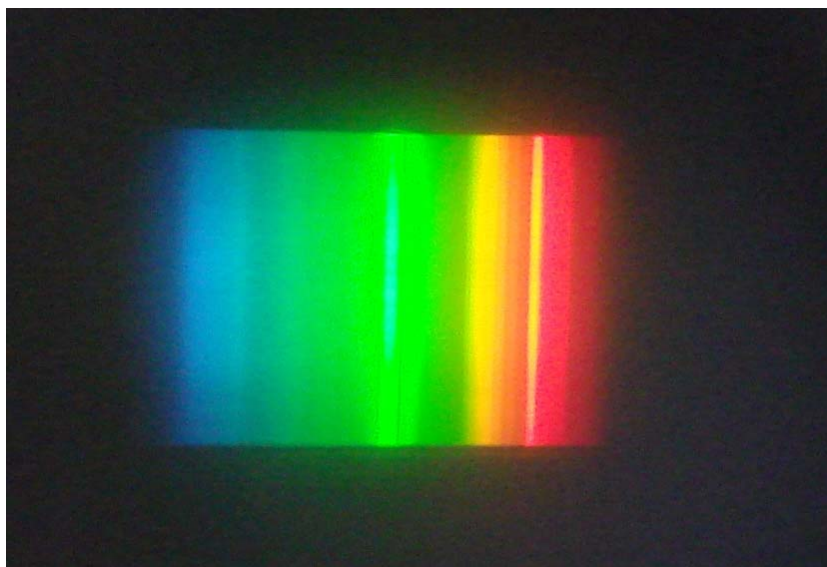


写真 4 この DIRECT VISION SPECTROSCOPE で見た太陽光のスペクトル
肉眼ではもっとよくフラウンフォーファー線が見える

下の写真 5 は、蛍光灯の光を見たものである。蛍光灯の輝線（エミッションライン）がきちんと見える。



この分光器で明るい天体を覗いてみるとおもしろいかもしれない。試してみよう。特別公開のとき使える道具になるかもしれない。